

保護者等向け

放課後等デイサービス評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	17	5	0		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	20	2	0		
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	12	7	3		
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、 <u>放課後等デイサービス計画*1</u> が作成されているか	21	1	0		
	5	<u>活動プログラム*2</u> が固定化しないよう工夫されているか	17	5	0		
	6	<u>放課後児童クラブや児童館との交流や、</u> 障害のない子どもと活動する機会があるか	1	12	8		
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	20	1	0		
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	19	3	0		
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	20	1	0		
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	5	13	3	正確口しか利用していないので分かりにくい	広報などで分かりやすくいたします。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	18	3	0	今の所、苦情等はありません。	ありがとうございます。
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	22	0	0		
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	18	3	1		
	14	個人情報に十分注意しているか	20	2	0		

常時等の対	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	15	6	0		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	17	3	1		
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	20	2	0		
	18	事業所の支援に満足しているか	19	2	0	本人が楽しみに通っているのです。	今後もより楽しく過せるように色々な企画を検討していきます。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

事業所名		Cocoroみらい				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	利用定員に対して基準より多い職員を配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	3	個々のプログラムに集中して取り組めるよう、カリキュラムへ取り組み時は壁の方を向くなど環境を整えている。	肢体不自由の方へはスタッフが階下まで行って、出迎えをするなどバリアフリーではなくてもサポートできるように今後も気を付けていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	クールダウン室が1部屋あり、不穏な気持ちが出たり、苦手な音などの環境があった際使用できるような環境になっている。	別のカリキュラムで使用している場合も多く、すぐに使えない場合もあるが、スケジュールを調整しながらいつでも開放できるように工夫をしている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	定期的なケース会議を開き、ご利用者さんの様子を共有している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0		前回の保護者向け評価の内容をスタッフへ伝えきれていないところがあったため、スタッフ全員で気を付けていけるように情報を共有していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	昼礼会議や日々の振り返りの時間に情報や子どもの様子など話し合う時間が設けられている。	昼礼ノートをつくり、休んだスタッフへも共有できるようにしていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6		現状、第三者による外部評価を行っていないが今後導入予定。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	定期的な全職員が研修を行えるようにしている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	保護者にアセスメントを実施いただきスタッフ間で共有や会議を実施し、計画書の原案を作成。作成後に面談を実施し、保護者のご要望を確認し、計画書を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	ケース会議にて計画が決定し、計画を職員に共有しながら支援を考えている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	3	年に1回アセスメントを実施し、AIを使用してアセスメントの分析を実施。また、AIの結果だけでなく日々の行動観察をもとに支援計画を作成している。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	1		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	2	同じカリキュラムの中でも作業内容を変えている。	イベントをとり入れることでいつも違ったプログラムに参加できるよう促していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	長期休みには個別プログラムと集団プログラムをバランスよくとりいれて、参加できるようにスケジュールを作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	2	当日または前日には打ち合わせを行うことで、支援内容や利用者さんの留意すべき点を話し合っている。	長期休みや早帰りなど利用者さんが早く来る時には話し合いの時間が確保できない時があるため、事前に話し合いの時間を確保しておく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	当日または次の日には支援の内容を振り返り、今後どのように支援していくかをスタッフ間で考えている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	振り返り時に支援計画の内容をモニタリングし、達成や目標の変更が必要な場合は見直しを実施している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	1	5	自立支援として毎回、個々に応じた自立課題の実施や多様なプログラムの実施、集団の中で創作活動、余暇の提供、地域の公共施設を利用するなど地域交流もできている。	中学・高校生になると来所時間が遅い為、個別や集団、専門的実施計画を実施すると余暇時間の提供が少なくなってしまうが長期休みなどの時間が多くある時はできている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	スケジュール管理やおやつを自分で買に行くなど、自己決定をする場面を多くつくっている。	
関係機関や保護者	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	管理者もしくは児童発達支援管理責任者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	3	他の施設と連携しながら、子どもの様子について情報共有を行う。	管理者が他の福祉事業所と連携をしているのは知っているが詳細は理解できていない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	2	特に不登校の子に関しては学校と情報共有することで連携を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	0	6		中高生の子がお預かりのメインとなっており、保育所等とは連携を行う機会が少ない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	6		卒業して障害福祉サービス事業所へ行く機会が少なかったが、もし移行する場合情報の共有をしていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	5		管理者が外部での研修を受ける機会はあるが、他スタッフさんは少ないため、zoomなどが活用できる場合は特に他スタッフへも機会を増やせるようにしていく。

者との連携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	4	他の子どもと接する機会は少ないが、事業所近くのお店へ買い物に行くことで地域と接している。	
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	1	5		今後積極的な参加を検討していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	2	半年に1回、保護者の方と面談する機会を設けつつ、送迎がなく保護者と会う機会が少ないため、LINEを活用して日々の活動内容を伝える。	活動内容を伝えるにあたり利用者さんによってかたよりがでている可能性があるため、まんべんなく伝えられるように留意する。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	ご家族の方から質問や困りごとがあった時は各専門職からのアドバイスももらいつつ、それをふまえた支援内容を保護者の方へ伝えている。	研修の機会についてはオープンチャットを用いて、情報を共有していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	ご見学や契約時に運営規定、支援プログラム、利用者負担等について細かく説明を実施している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	面談実施時に保護者の方に支援方法に対してのご意向の確認を実施している。また、年1回のアセスメントでお子様・保護者の支援の希望を確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	面談時に個別計画の説明をしつつ、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	全家庭、半年に1回面談を実施。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	5	つどいと呼ばれる専門職の方がつくった、保護者の集まれる会をつくり、集まりに参加できている保護者の方がいる。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	保護者へ苦情があった場合、迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	自事業所専用のブログを月に1回更新し、日々の活動の様子をアップしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	入職時に個人情報の取り扱いに関する同意書を交わしている。また、個人情報に関する研修も実施している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	1	言葉だけの指示ではなく、イラストや文字におこすことで情報伝達の配慮を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	6		今後長期休みを用いて、体験会をひらくなど地域の方が来られるよう検討していく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	避難訓練を実施し、その様子をブログを活用し共有している。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	1	少なくとも年に2回以上は避難訓練を実施し、必要であれば消防の方に来ていただきアドバイスをもらう。	BCPの必要性について職員に周知していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	2	アセスメントの際に服薬やてんかん、アレルギーに関する情報を保護者からいただいている。	

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2	アレルギー対応についてはマニュアルを活用して対応できるようにしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	安全計画の策定、児童・職員への訓練も実施している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3		ブログのみ更新にならないよう、適宜保護者の方へ通達していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	2	ヒヤリハットを見つけた時は全従業員で事案を共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	全職員に対して研修を実施しているのと会社から配布されるチェックリストを実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0		